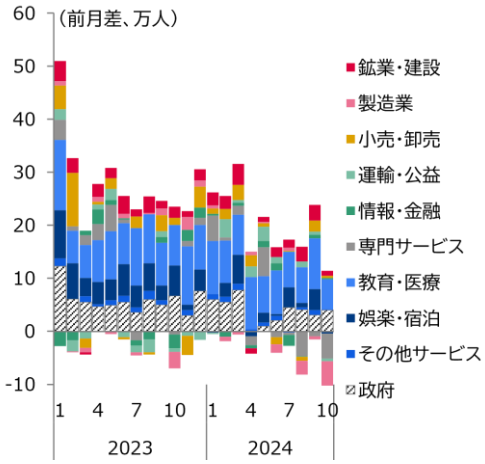
米国

雇用統計（2024年10月）

一時影響で雇用の伸びは大幅鈍化、企業の雇用姿勢に底打ちの兆し

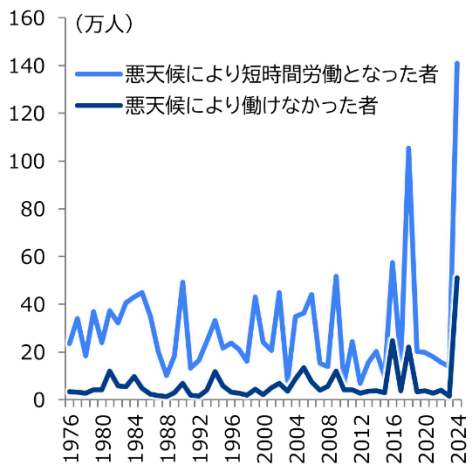
政策・経済センター
浅井優汰
03-6858-2717

1 産業別の雇用者数



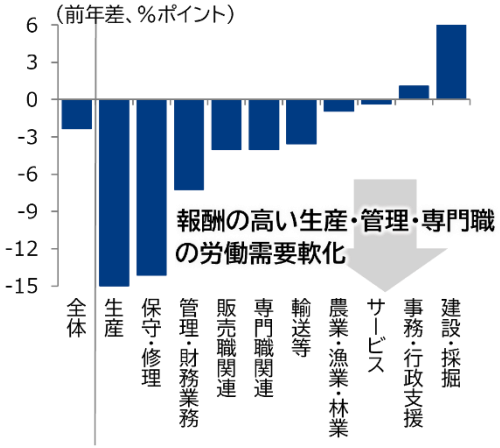
出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

2 悪天候の影響を受けた労働者数



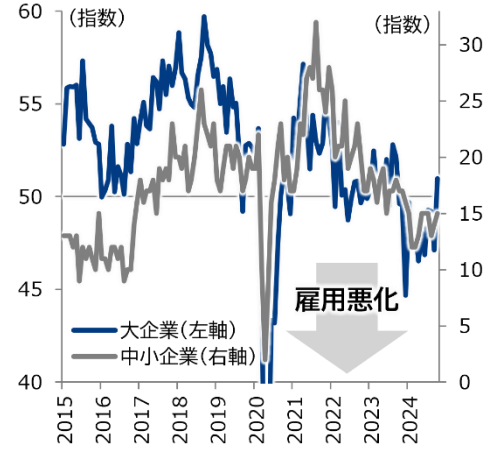
注：各年10月のデータ。
出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

3 職種別の就職率（前年差）



注：23年8月との差。就職率とは、失業者のうち、一定期間内に新たに職を得た人の割合。
出所：John（2024）“Job Finding Rates Are Falling”, Federal Reserve Bank of Richmondより三菱総合研究所作成

4 企業の雇用姿勢



注：大企業はISM製造業と非製造業の雇用指数をGDPシェアで加重平均した値。中小企業はNFIB中小企業楽観指数の雇用関連項目。図中直線はISM景況指数の雇用拡大・縮小の境目及びNFIB中小企業楽観指数の15-19年平均水準。
出所：ISM®、NFIBより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 10月の非農業部門雇用者数は前月差+1.2万人（前月同+22.3万人）と伸びが大幅に鈍化した（図表1）。なお、雇用の伸びが大幅に鈍化した背景には、ストライキや大型ハリケーンが影響している。悪天候の影響を受けた労働者数数は10月としては統計開始以来の高水準に達している（図表2）。
- 産業別では米航空機大手ボーイングのストライキの影響で製造業が同▲4.6万人と大幅に減少したほか、娯楽・宿泊（同▲0.4万人）も減少に転じた。
- 一方、ストライキや悪天候の影響を受けにくい家計調査をみると、失業率は4.1%と前月から横ばいだった。労働参加率は62.6%と前月（62.7%）から低下、平均時給上昇率は前年比+4.0%（前月同+3.9%）と伸びが拡大した。

基調判断と今後の流れ

- ハリケーンなどの一時的影響を除くと、労働需要は緩やかな軟化基調とみる。
- 労働市場の健全性を示す失業保険継続受給者数は増加を続けている。また、就職率（失業者のうち一定期間内に新たに職を得た人の割合）は1年前から2%ポイント程低下している。職種別では、建設・掘削などが堅調である一方、報酬の高い生産・管理・専門職の低下が顕著となっている（図表3）。
- 先行き、雇用環境は底堅さを維持すると予想する。構造的な人手不足圧力の強さに加え、FRBの利下げが徐々に労働需要の回復に寄与するとみるからだ。
- 企業の雇用姿勢は底打ちしつつある（図表4）。背景には、利下げによる需要回復を期待した採用の動きに加え、コロナ危機以降に増加した55歳以上の早期退職による人手不足圧力を受け、解雇に慎重になっていることがあるとみる。
- 金融政策について、FRBは24年12月FOMCで0.25%ポイントの利下げを行うとみる。現在、失業率と求人率は概ね均衡しており、一段の労働需要の抑制は失業者数の急増を招く恐れがあるからだ。もっとも、次期大統領に決まったトランプ氏の主張する追加関税や移民抑制策はインフレ圧力を高める可能性が高い。25年以降は、FRBは慎重な利下げ姿勢を堅持するだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.